

平成 26 年 7 月 自立支援協議会定例支援会議

日時	平成 26 年 7 月 24 日（木）13:30～15:30
場所	東広島市市民文化センター研修室 1・2
参加者 49 名	広島県立障害者リハビリテーションセンターあけぼの、高次脳機能センター、広島県立障害者療育支援センター、特定相談支援事業所ときわ、ともがき、ソレイユ、児童デイサービスいずみ、きのこ村、賀茂精神医療センター、広島県就業・生活支援センター、ももぞの学園（実習者）、東広島市民生委員児童委員協議会、東広島市心身障害児者父母の会 2 名、東広島市歯科医師会、ピアサロンこころ、東広島ろうあ協会 2 名、ピアカウンセラー、手話通訳者 2 名、東広島市手話サークル連絡会、広島県手話通訳問題研究会中部ブロック、広島県立身体障害者更生相談所、広島県難聴者・中途失聴者団体連合会東広島市部、東広島市要約筆記サークル花たば、広島西条公共職業安定所、広島県立黒瀬特別支援学校、広島県立西条特別支援学校、東広島市社会福祉協議会 4 名、自立支援センターつばさ、市高齢者支援課、市保育課、市福祉部障害福祉課 3 名、市子育て・障害総合支援センター 10 名（順不同）
<p>○運営事務局に寄せられた意見について（司会より）</p> <p>「前は質疑応答の時間がなかった。読むのは強調部分のみとし、読めばわかる部分は質疑応答の時間を十分とっていただきたい」との意見をいただいた。音声の情報の方が理解しやすい方もおられると思う。この意見については、今後、事務局で協議させていただく。今日は紹介のみとさせていただく。</p> <p>1. 平成 26 年 5 月～7 月相談支援会議の報告（報告者：相談支援事業所ときわ）</p> <p>○「精神に障害のある方が、緊急時に利用する社会資源（ショートステイ等）が不足していることについて」</p> <p>（5 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題発見シートをもとにして、「課題の抽出と共有」を目的にグループディスカッションを行う。受け入れ事業所、利用者の状況判断、ニーズの把握の 3 つの課題を確認する。 <p>（6 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の思いや意見を聞くため、当事者に参加依頼していたが参加できなかったため、代弁者として支援者の話を聞く。その後グループディスカッションを行い、必要な仕組みや社会資源について協議した。緊急避難先としての資源の必要性、支援者側の理解、出向く支援、医療との連携、クライシスプランの作成などの意見があった。今後、具体的な協議は精神保健福祉部会で継続的に協議する。 <p>○「知的障害を伴う自閉症がある方が地域で生活していくために」</p> <p>（7 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題発見シートをもとに、「課題の整理」を目的とし、本人、家族、地域、事業所等、それぞれの立場で考えられる課題をグループディスカッションにて意見を集約し、課題を確認。 ・今後の予定…事務局で課題の整理をし、次回以降も継続して協議を深めていく。 <p>2. 自立支援協議会プロジェクト会議、部会等の進捗状況についての報告</p> <p>○自立支援協議会説明ツール作成プロジェクト（報告者：はあとふる CD）</p>	

- ・印刷物…NETZ等で事業所にも確認していただき完成とした。ご意見があればいただきたい。印刷物についてのプロジェクトは、一旦終了とする。
- ・映像…新たにプロジェクトを立ち上げるかについて事務局で検討中。
- ・7月相談支援会議で、このツールを用いて今後どのように当事者にアプローチしていくかを協議した。その意見をもとに、どのように当事者参加につなげていくか、事務局で検討中。

○通学支援プロジェクト（報告者：社会福祉協議会）

- ・昨年度の相談支援会議で「障害のある児童、生徒の通学支援について」をテーマに協議を行い、今年度5月から実態把握を目的としたプロジェクト会議を開始。
- ・アンケートを作成し、東広島市内在住の就園・就学している児童・生徒の保護者にアンケート調査の協力を依頼。今後、結果を集約し状況の分析を行う。
- ・分析結果の報告は、9月を予定していたが、アンケートの実施期間が延長。

○精神保健福祉部会（報告者：はあとふるCD）

- ・地域移行・地域定着について…部会メンバーから4月の法改正による医療保護入院の現状報告を受け、夏以降、相談支援事業所に相談があるのではと想定される。今後は、退院前から関わるケースの増加が予想され、医療と福祉の連携が大切になってくる。
- ・精神障害についての普及啓発…地域住民へ周知していくための取り組みについて話し合っている。シルバーリボン（精神疾患に理解を求める）の活用を検討中。
- ・今後は、相談支援会議の協議を、引き続き部会で行う。また、精神科病棟を居住施設に転換する案が決定されたので、今後の動向も注目していく。

○聴覚障害者の課題を検討する部会（報告者：社会福祉協議会）

- ・一人ぼっちの聴覚障害者をなくしていくことを目的として、聴覚障害者への理解を広める取り組みについて協議している。
- ・市民への啓発活動について、アイデアを集約している。福山市の「見えるラジオ」や劇団での発表などのアイデアがあった。
- ・西高屋地区民生委員・児童委員協議会5月定例会において、聴覚障害者啓発パンフレットをもとに学習を行った。6～8月定例会で、東広島ろうあ協会と手話サークル連絡会が講師となり、「ミニ手話講座」を開催。
- ・聴覚障害者が安心して受診できる体制づくりを歯科医師会との連携で行う。
- ・市総合防災訓練（8月21日）に、障害者が初参加。聴覚障害者が避難民として参加する予定。
- ・難聴児の地域課題は、親の会を中心に、月1回「スマイルクラブ」として、ろう学校の元教員の協力を得て活動を開始する。
- ・障害者フォーラムは分科会に参加の方向で内容を考えていく。
- ・地域サロン「MIMI学園」の活動にも、ぜひ来てほしい。
- ・今後の予定は、聴覚障害者に対する理解を市民に広げる取り組み。難聴児の地域課題の協議。聴覚障害者が医療機関を利用しやすい体制づくり。

○就労部会（報告者：はあとふるCD）

4 月部会の報告

・各事業所の動向について

事業所内で接客業の体験ができない事業所では、ランチ・パン製造の事業所より受け入れが可能と報告があった。言葉づかいなどの社会スキル向上のため、利用者対象のエチケット講座開催。就労継続 A 型で定員を増やす事業所もある。特別支援学校では就職希望者が増えている。就労移行等を開始する予定の事業所、開設したばかりの事業所、通信制高校も出席しており、情報共有した。広島中央障害者就業・生活支援センターが西条駅近くに移転した。

・今後の課題・予定、各事業所より情報共有。就職応援セミナーについて検討。

○権利擁護部会（報告者：はあとふる CD）

- ・権利擁護制度に向けた検討を行い、アンケート調査に向けて準備中。
- ・障害者施設連絡会（SKH 東広島）の運営…6月3日に第5回を実施。内容について検討。
- ・今後の課題・予定…①啓発研修企画②権利擁護制度創設の検討③福祉計画の進捗管理。

○ヘルパー支援部会（報告者：ヘルパーステーションソレイユ）

- ・夏休みのプール支援…各ヘルパー事業所に概要説明と協力依頼を行い、事業所に繋がらない方がいた場合は、すぐに事業所に案内できるよう空き状況の確認を行う。
- ・移動支援の外出プランや外出先の情報を共有するためのアンケートについて、次回検討する。
- ・東広島健康福祉まつりにパネル展示で参加予定。
- ・ヘルパースキルアップ研修を6月17日に実施。事例を用いて意見交換を行う。次回は9月に「食事介助」を企画中。
- ・今後の課題・予定…障害特性に合わせた研修の実施。ヘルパーの仕事の楽しさを、どのように知ってもらおうか検討する。

○療育部会（報告者：はあとふる CD）

- ・集団のなかで落ち着いて過ごすことが難しく発達支援ニーズのある子どもは、こども家庭課が実施するパオパオくらぶを卒業後、地域の子育て支援センター等に通いづらいつながりがあり、活動場所がないことについて協議。療育機関の待機も課題となっている。
- ・各子育て支援センターの情報共有、活用検討を行った。発達支援ニーズがある子ども受け入れ可能な子育て支援センターとなるためには、環境の設定や一定の専門性が必要になることを確認する。
- ・今後は、専門性を持った人材を地域の資源に配置できるよう育成することについて協議していく。

○医療連携部会（報告者：はあとふる CD）

今年度より医療ケアが必要な当事者の家族にも参加をいただいている。

- ・医療ケアに対応出来る障害福祉サービスの現状として、県内のショートステイの受け入れ状況と、たん吸引対応可能なヘルパー事業所の現状報告を受けた。公表されている対応可能な人数はあっても、利用時の状況で受入れ可否が変わるので、詳細な聞き取りが必要とされる。
- ・家族に緊急事態が生じた時の対応について、体制整備が課題となる。事業所への聞き取りの際

に、現状で可能なことを確認していく。

- ・実態把握について、調査方法を検討し、訪問看護ステーションや学校に問い合わせをして、人数を把握していく。
- ・人工呼吸器装着児のNICUからの在宅移行について、同じ境遇の親同士の情報交換も十分でなく、保護者の不安は大きく、孤立している課題を確認する。既存の制度ではその対応が難しいが、それに代わるもの、どのようにすれば実現できるかについて、今後検討していく。
- ・協議のなかで、既存の制度と現実のニーズに違いによって利用者の減少が起こり、それが事業縮小に繋がってしまう悪循環になっているのではないかと指摘があった。
- ・今後の予定…①医療ケアを含めた障害福祉サービスを必要とされている方の実態把握。②医療ケアが必要な方が利用できる資源の調査とリストの作成。(今年度中に資源マップを作成したい) ③NICU退院時の支援体制の検討。④障害福祉と医療との顔が見える交流会の実施。

○相談支援事業所連絡会（NETZ東広島）（報告者：相談支援事業所ときわ）

平成26年度の取り組み

- ・サービス等利用計画の進捗状況、各事業所の体制を確認。
- ・事例検討と協議した事例のその後の報告。
- ・基幹センターから事業所へのケースの引き継ぎ方について協議と共通様式の確認。
- ・夏休みなどの長期休暇の計画について協議し、更新の計画や、モニタリングについてベースを作ることとなる。
- ・相談支援専門員初任者研修の事前研修について検討し、9月11日実施予定。
- ・アセスメントのスキルアップを目的にロールプレイを実施。ニーズの引き出し方について学ぶ。
- ・黒瀬特別支援学校との連携について協議。
- ・基幹センターの役割やイメージについて意見交換。
- ・高齢分野との交流会に参加。
- ・地域定着・地域移行について協議。
- ・今後の課題・予定…計画相談の進捗状況把握、管理。「質の良い計画」の担保について検討していく。

○障害者支援施設連絡会（SKH東広島）（報告者：はあとふるCD）

6月3日に実施。

- ・各事業所の取り組みについて情報交換、意見交換。
- ・今年度の研修について検討。
- ・入所施設利用者死亡事件の事例を元に事例検討。研修の実施、外部からの視点、職員同士で言い合える環境などの必要性を確認。
- ・今後の予定 ①施設職員研修の企画②権利擁護制度の検討③地域全体での権利擁護、虐待防止体制の構築

○高齢分野との交流会の報告（報告者：はあとふるCD）

- ・相談支援会議で、「障害のある方が、高齢になることによって生じる課題について」について協議した。そのなかで、高齢、障害の支援者同士の情報交換や交流の場が必要という意見

があり、交流会を6月20日に開催した。参加者は約80名。お互いの分からない点について質疑形式で意見交換をした。内容は現在集約中。今後これらを活用して、お互いの分からない部分を解決したい。継続して支援者同士の学習会、交流会を開催したいという意見が参加者から多数あり、今後も検討していく。

- ・介護支援専門員連絡協議会の企画で、7月24日開催の交流会の案内があった。今後も、お互いに連携しながら検討していきたい。

【質疑応答】

「医療連携部会」について

Q1（心身障害児者父母の会）

今後予定に、実態把握や利用できる資源の調査とリストの作成とあるが、既に出てきているべきではないか。行政の仕事ではないかと思う。何故このような状況なのか、今後の方向性はどのようなのか。行政にもしっかり取り組んで欲しいと思うが、いかがか。

A1（はあとふるCD）

ご指摘の通りだと思う。医療ケアの必要な方の在宅移行がここ数年で急速に進んでいる。以前は、NICUで人工呼吸器等を装着した方は重症心身障害児施設への移行が多かった。施設が空くまでNICUで待機していたため、NICUに空きがない状況だった。その結果、出産時に高リスクの方の受け入れが出来ないケースが全国的に起こり、国の施策として在宅移行が進んだ。これは始まって数年というところ。一昨年度から重症心身障害児者の在宅生活について、全国でモデル事業を行っており、厚生労働省のホームページにも詳しく掲載している。その一番の課題が実態把握。現状では、在宅で医療ケアが必要な方、重症心身障害児の数の把握ができていない。重症心身障害児者を守る会の全国組織でも、今年度の取り組みの大きなテーマとなっている。実際には家で孤立している方も多く、サービスを受けず、どこにも行かず、病院との往復のみという方もいるのが現状。東広島市内の現状確認もしていきたい。医師会あざれあの尽力もあり、医療ケアが出来るヘルパーの研修も積極的に取り組まれた。医療ケアが出来るヘルパー事業所も増えている。どこまで医療ケアが対応出来るか、現状の把握をしたい。

Q2（心身障害児者父母の会）

この実態に驚いたというのが正直な気持ち。国がやってくれないなら自治体が力を入れるべき、命に関わる問題だ。NICUにおいて、出産時の緊急事態に空きがない問題は、テレビでも報道されていた。今、この状況にある子ども、これから生まれてくる子どもにとっても大切なこと。国がやらないから自治体もやらないのではなく、もう少し真剣に取り組んでいただくべき問題。税金を納める私たちの立場からすれば、これは行政が当然やるべきことだと感じている。

A2（障害福祉課）

全国的に実態把握自体が難しい状況である。市が持っているデータでも難しい。個人情報の問題も課題となっている。既存の障害福祉サービスがあり、使えるサービス量は決まっているなかで、国は「柔軟に取り扱う」、「拡充する」などの方向性は出さずに、モデル事業を行っており、市でも疑問に感じる部分はある。

・（司会）

課題が多い中で東広島市としては、多くの方に在宅医療が出来るよう検討していきたい。多角的な意見も必要である。兄弟を他所に預けて、障害がある子を養育されている実態もある。地

域で見守ることができる体制を築いていきたいので、ご協力お願いしたい。

「就労部会」について

Q3（心身障害児者父母の会）

A型事業所、B型事業所について教えていただきたい。

A3（はあとふる CD）

障害福祉サービスの中に、介護等給付、訓練等給付がある。介護等給付とは、日中活動の場として生活介護事業。訓練等給付とは、福祉的就労事業として、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援。就労継続支援A型は、福祉事業所と雇用契約を結び、福祉サービスを受けながら通っていく場所。福祉の受給者証を持って利用をすすめて行く。就労継続支援B型は、雇用契約は無いが、日中活動の場として訓練を受けていく。売上が発生した場合は工賃として支給を受ける。就労移行支援事業は、2年間の有期契約で一般就労を目指しながら利用する。

Q4（心身障害児者父母の会）

福祉的就労はどちらになるのか。

A4（はあとふる CD）

訓練等給付を受けている事業の全てになる。

3. 情報交換

○前回会議の質疑について回答

「市内に手話ができるヘルパーはどれくらいいるのか」について（報告者：はあとふる CD）
障害福祉サービスを提供しているヘルパー事業所に確認。5事業所から「少し出来る」との回答あり。内容は聴覚部会に報告した。「充分話せる」と回答した事業所は無く、部会で課題としていきたい。詳しい内容が必要な場合は、ヘルパー支援部会に連絡をいただきたい。

○聴覚障害者用SOSカードについて（障害福祉課）

平成26年8月1日、障害福祉課窓口配布、または、東広島市ホームページよりダウンロードを開始予定。聴覚障害者がカードを提示した場合は、皆様の支援のご協力をお願いしたい。

○発達障害者支援啓発研修について（はあとふる CD）

平成26年9月6日、東広島市市民文化センターにて、明石洋子先生の講演会を開催。
多くの方のご参加をお願いしたい。

○障害者就職応援セミナーについて（はあとふる CD）

①就労支援担当者向け…8月5日開催。

②求職者向け…9月19日、10月10日開催。

・8月開催のセミナーには、就労支援員やサービス管理責任者等、多くの方に参加して頂きたい。

○事業所より夏祭りのお知らせ

以上